

メディアリリース

2016年5月10日

本資料は5月10日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版です

クレディ・スイス、2016年第1四半期業績を発表

銀行全体にわたる大幅なコスト削減、アジア太平洋部門 (APAC)、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門 (IWM)、スイス・ユニバーサル・バンク部門 (SUB) では利益成長と資産の純増を達成。ルックスルーCET1 比率は 11.4%と安定的な資本基盤。

ハイライト

2016年第1四半期業績

- クレディ・スイス・グループの当四半期の税引前損失は 4 億 8,400 万 CHF (調整後ベース*: 1 億 7,300 万 CHF) でした。これに対して前年同期の税引前利益は 15 億 1,100 万 CHF (調整後ベース*: 13 億 5,700 万 CHF) でした。
- コア税引前利益は前年同期の 18 億 9,400 万 CHF (調整後ベース*: 17 億 4,000 万 CHF) に対して、2 億 4,000 万 CHF (調整後ベース*: 4 億 7,000 万 CHF) でした。
- クレディ・スイス・グループの営業費用合計は、前年同期比で 3% 減、前四半期比で 53% 減の 49 億 7,200 万 CHF (調整後ベース*: 47 億 1,700 万 CHF) でした。
- ルックスルーCET1 比率は 11.4% でした。
- ルックスルーCET1 レバレッジ比率は 3.3% でした。
- 取締役会は 2015 年通期の株式配当に対する割引率を 10% に設定しました。

厳しい市場環境における規律ある業務執行

- 厳しい市場環境に対応するため、コスト削減プログラム実行を促進しました。
- 当四半期には、2016 年通期の純コスト削減目標である 14 億 CHF の半分強に相当する純コスト削減を達成しました。2016 年末までの総コスト削減目標の 17 億 CHF、もしくはそれを上回る削減を達成できるものと確信しています。
- グローバル・マーケッツ事業再編促進 (GMAR) は順調に推移しています。2016 年末までの人員削減目標の 3,500 名のうち、1,000 名強¹ の人員削減を実行したほか、事業の撤退や組織構造の刷新を通じて事業の簡素化を推進しました。
- グローバル・マーケッツ部門 (GM) の大幅なリスク低減を実行しました。2016 年 5 月 3 日に 12 億 7,000 万米ドルのディストレスト債権ポートフォリオの一部を TSSP に売却したほか、ローン担保証券 (CLO) のポジションを前四半期から 81% 減と大幅に削減するなど、クレジット資産の売却を通じ、ディストレスト債権エクスポージャーを前四半期比で 79%² 縮小しました。その結果、不利なシナリオ想定時の四半期最大損失を約 50% 低減するという目標を達成することができました。
- ストラテジック・リゾリューション・ユニット (SRU) の段階的縮小では大幅な進捗があり、リスク加重資産 (RWA) は当四半期に 70 億 CHF 減少しました。

利益成長

- **アジア太平洋部門 (APAC)**
 - 調整後*規制資本利益率は 20%
 - 新規純資産は 43 億 CHF、グロスマージンは 81bp
 - 有能なリレーションシップ・マネージャー (RMs) の採用は引き続き成功。新規採用人数は前四半期の 40 名に続き、当四半期も 40 名となり、リレーションシップ・マネージャー総数は前年同期末の 530 名から 630 名に増加
- **インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門 (IWM)**
 - 新規純資産³ は 69 億 CHF、プライベート・バンキング事業のグロスマージンは 109bp
 - 専任の新規採用者を含め、90 名のリレーションシップ・マネージャーの採用に着手。このうち 3 分の 2 は主に新興国市場を担当
 - 調整後*⁴ 規制資本利益率は 24%
 - プライベート・バンキング事業の投資運用一任契約とローンの普及率はいずれも前年比で増加

● スイス・ユニバーサル・バンク部門 (SUB)

- 調整後*税引前利益は前年同期比 12%増の 4 億 6,600 万 CHF、調整後*⁴ 規制資本利益率は 16%
- プライベート・バンキング事業のグロスマージンは 139bp と安定的
- 投資運用一任契約の普及率は前年同期の 15%から 27%に上昇

インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ部門 (IBCM) は M&A と ECM に軸足を移し成功を収めている

- M&A の収益(米ドル建て)は前年比で倍増、北南米における M&A 完了案件で第 4 位にランクイン⁵

ルックスルーのリスク加重資産は、規制上の理由に起因してリスク加重資産が 70 億米ドル増加したにもかかわらず、約 2,900 億米ドルから約 2,800 億米ドルに減少しました。

厳しい市況の中、資本基盤は安定的に推移し、規律ある資本管理とコスト管理を通じてルックスルー CET1 比率は 11.4%となりました。

クレディ・スイスの最高経営責任者(CEO)のティージャン・ティアムは、次のように述べました。「2016年1-3月期は3つの明確な優先項目を掲げながら当グループの戦略の実行に引き続き力を注ぎました。その優先項目とは、コスト及び人員の削減の促進、ウェルス・マネジメントに重点をおく部門における利益成長の達成、そして堅調な資本基盤の維持です。非常に厳しい市場環境の中にもかかわらず、これらの全ての項目にわたり良好に進展いたしました。

- グループ全体のコスト削減は順調に進んでいます。5月10日時点で、2016年通期の人員削減目標6,000名の58%に相当する、3,500名¹の人員削減を行いました。当期には、年換算ベースで、14億CHFの2016年通期純コスト削減目標の半分強に相当する純コスト削減を達成しました。
- 2016年3月23日にグローバル・マーケット事業再編促進策(GMAR)を発表したグローバル・マーケット部門では、固定費削減で進展があり、2016年5月10日時点で、1,000名強¹の人員削減を実施いたしました。
- 今後、GMARを通じて、グローバル・マーケット部門のリスク加重資産及びレバレッジの大幅な削減と、将来の規制動向を見据えたビジネス体制の整備を行っていく方針です。
- グローバル・マーケット部門のポートフォリオにおける大幅なリスク低減を実施いたしました。12億4,000万米ドルに上るデイトレスト債権をTSSPに売却したほか、ローン担保証券(CLO)のポジションを前四半期から81%減と大幅に削減し、その結果、不利なシナリオ想定時の四半期最大損失を約50%低減するという目標を達成することができました。
- ストラテジック・リゾリューション・ユニットが成功裏に業務を遂行することは、当グループの戦略目標及び財務目標を達成する上で極めて重要です。当期にストラテジック・リゾリューション・ユニットのリスク加重資産を70億CHF減少させるなど、良好な進展を見せています。

当期には厳しい環境の中、ウェルス・マネジメントに重点をおく全ての部門は堅調な業績を上げ、利益成長を達成しました。これらの部門は合計で約10億CHFの調整後*税引前利益を生み出しました。アジア太平洋部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門、スイス・ユニバーサル・バンク部門の新規純資産はそれぞれ43億CHF、69億CHF³、30億CHFでした。

当グループは引き続き利益成長に注力しています。アジア太平洋部門の利益率は前年比で安定的に推移し、新規純資産は11%増加しました。インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門の利益率は2011年以来の最高水準まで上昇しました。これは、当グループの優良な顧客基盤、強固な顧客関係、貸付資金の利用可能性の改善を示しています。

リレーションシップ・マネージャーの採用については、ウェルス・マネジメントに重点をおく全ての部門にわたり、従来と同じペースで進めており、アジア太平洋部門のリレーションシップ・マネージャー数は前年の530名から100名増加して、当四半期末までに合計630名となりました。

顧客活動の水準が急落し、市場も縮小したため、価格管理やリスク加重資産とレバレッジの削減といった重要な手段を用いて、安定的なルックスルーの普通株式等ティア1資本比率11.4%を実現しました。2016年は、11%から12%の範囲で営業活動を行うことを目標としています⁶。

当四半期、特に1月と2月は、過去最悪ともいえる厳しい市場環境となり、取引量と顧客活動が大幅に低下しました。3月と4月には一時改善の兆候が見られたものの、市場環境の逆風と低水準の顧客活動は2016年第2四半期、そして恐らくそれ以降も続く可能性が高いと思われます。

ウェルス・マネジメントに重点をおく部門では、卓越したインベストメント・バンキング能力を背景に、長期的に魅力的な機会を捉え、長い目で見れば、当グループの戦略が顧客と株主にとっての価値を生み出すものと確信しています。

当グループは、コスト削減、利益成長のための選別的な投資、資本管理という計画を、規律ある形で実行することに引き続き注力していく所存です」。

* 調整後業績は、非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 財務指標に対する調整後業績の差異調整については、5 月 10 日に発表された英語版メディアリリースの Appendix における調整項目の調整後数値をご参照下さい。

注 1: 退職した人員及び通知済みの人員を含みます。

注 2: 2016 年 5 月 3 日における、最低割引額 9,900 万米ドルのディストレスト・ポートフォリオの売却を含んでおり、これは最大 12 億 4,000 万米ドルの在庫削減をもたらす予定です。

注 3: インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門の新規純資産は、プライベート・バンキング及びアセット・マネジメントの新規純資産の合計であり、事業全体で管理される資産に対して調整されたものではありません。

注 4: 全期間について、税率 30%とし、かつ最低平均リスク加重資産の 10%及び最低平均レバレッジ・エクスポージャーの 3.5%に基づき資本が割り当てられるものと想定した(調整後)税引後利益に基づいています。

注 5: ディールロジックの公表データ

注 6: 重大な訴訟費用に対する引当は行っていません。